



ひらほく新聞

ひらほく新聞で検索!

★ホームページ・ひらほくランド★

http://www.hirahoku.com/

☆ホームページにて ひらほく新聞を閲覧・ダウンロード可能になりました!

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

君の代わりはいない

【ロックバンドおかん】

当時中学生だった現在メンバーのDAI、YOU、本東地を中心に結成。コピーバンドを経て、当時バンドの一番のファンだった友人の突然の死をきっかけに、オリジナル楽曲を製作しライブを行うようになる。メンバーチェンジの末、2004年9月にドラムの成を迎え現在に至る。人それぞれの人生には、決して捨てることのできない大きな意味があり、生きているからこそ実感できる 嬉しさ、喜び、悲しさ、怒りに満ち溢れている。そんな瞬間の気持ちを歌詞に詰め込み、リアリティー溢れる鼓動を唄に込める。2013年4月8日、4人の17年の夢であった大阪城ホール単独公演LIVEを実現。翌日から中国、台湾、マカオ、香港の4カ国をまたぐアジアツアーを実施。次なる大きな1歩を踏み出した。

厚木市で5月、男児(死亡当時5歳)の白骨遺体が死後7年以上たつて見つかった事件を受け、産経新聞が全国の自治体47都道府県と計63の政令・中核市に5月1日時点の所在不明状況を尋ねるアンケートを実施。そして、18歳未満の所在不明の子供が少なくとも29都道府県で計1603人に上ることが7月20日、明らかになりました。この1603人の子供たちは果たしてどこで何を思い、どう過ごしているのでしょうか。

7月6日、「ロックバンドおかん」というグループのライブが厚木であり、サポートスタッフとして参加しました。熱く盛り上がったライブの最後、アンコールの曲目として、どうしてもこの唄をと、ボーカルのDAIさんが次のように深いメッセージを語りました。

どうしてもこの厚木で歌いたい曲があつて……。関東に出てくる前に家で作業して、寝ようかなってテレビ消そうとしたら、ある悲惨なニュースが流れてきた。

5歳の理玖(りく)君が厚木市内の住宅の、ゴミだらけの6畳の和室でタオルケットみたいなものが引かれているその上で白骨化して見つかった。窓ガラスに目張りがされていて、7年間そこで一人きりだったって……。お母さんが出ていって、お父さんは外でほかの女性と付き合うようになって、家にほとんど帰ってこなくなつた。帰ってきてても、1食分くらいしか食べられなくて……。

そして、テレビのニュースで言った、そのお父さんが息子さん、理玖君と最後に交わした言葉は、こんな言葉やつた……。

最後、おにぎり一つ渡して、理玖君は痩せ細ってガリガリでもう立つこともできへんし、おにぎりを自分で開けることもできへんかった……。それでお父さんが家を出て行く時に理玖君が最後にお父さんに言った言葉は……。

『パパ……、パパ、パパ……』

子どもは、お父さん、お母さんが無条件に大好きやし、お父さんがどんなことをしたとしても最後の最後までパパはパパや。オレ、この子が最後誰からも愛されることなく和室で一人を息を引き取って7年間そこで独りぼっち……。その子の気持ちを考えると……。

いま、こうして厚木へ歌いに戻つてきて、「おかえり！」って言われて、こうしてライブでみんな幸せな顔してくれて、みんな「ありがとう！」って言ってくれて、

こうして最高にいい景色を見れば見るほど、すごく悔しい！あの子にこの景色見せたかったし、あの子にもライブ来させてあげたかったし、いろんな所へ連れて行ってあげたかったな。で、その夜、寝られなくなつて、手を合わせて、その子の魂がもしあるのなら、オレの身体を使ってくれていいから、オレ、どんなに苦しくてもいいから、お前がオレの身体と一緒に楽しんでくれて思った。

そして歌ってくれた唄が 『君の代わりはいない』 サビから紹介します。

だからいつも一緒に、厚木に住んでたその子と一緒にいる気持ちでツアー廻つて、歌つてる。

君の代わりはいない 世界中探してもいない 君とあの人に流れてた時間を埋められる人はいないから

いま、この瞬間も日本中、世界中のどこかで、いまこの瞬間こんなに幸せなのに、メシ食われへんで亡くなっていく子もおれば、ハエだらけになつていく子、お母さんに暴力を受けてる子、いろんな子たちがいる。その子たちにオレは、一人でも、たった一回の唄を届けたい！本気で思う。この場所に連れて来れたら、絶対にみんなサポーターしてあげて幸せにしてあげられるの……ってホントに思ってます。

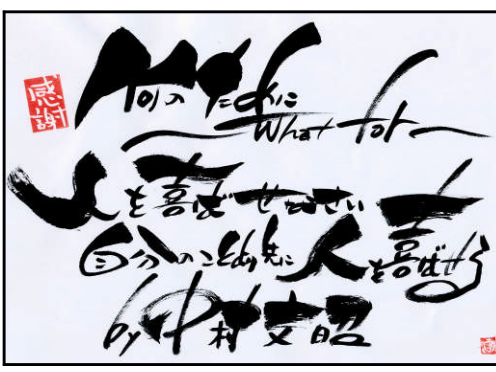
自分たちの夢追いかけるってことは、みんなに叶えさせてもらいました。僕たちはこれから……、ホンマに日本中の一人でも多くの子どもたちに、苦しんでる人たちに、僕たちのこの歌をみんなと合わせて最幸の空間の中で幸せのきつかけを届けてあげたい！僕たちは本気でそう願っています。いまつながつているみんなと一緒にやっていきたいと思います。

今日もたくさんの人と出逢わせていただき、ありがとうございませした。最後、理玖君の思いをかみしめながら、彼の最後の5分間、一緒に逢えたら歌いたかった曲を、この厚木で届けたいなあって思うんで、最後の1曲、どうか一緒にお願いいたします。よろしくお祈りします！

昨年9月号で『お金でなく人のご縁でつかく生きる』という内容でご紹介しました屈指の感動講演家、中村文昭さん。その文昭さんと出会う、時に泣き、時に笑い、励まし合いながら、支え合いながら、人々が大切なことに気づいていく姿を描いている素晴らしいドキュメンタリー映画『何のために』が完成。7月26日、47都道府県68か所で一斉先行上映会が行われました。

文昭さんからのメッセージをご紹介します。 日常のささいなことでも、これから先の人生のことを考えるときでも、『何のために』を考えるのはとても大切なことだと思います。

何のために勉強するのか
何のためにこの仕事をやるのか
何のために自分の人生を生きるのか
何のために自分と踏みしめて、意味のある一歩一歩をしっかりと踏みしめて、意味のある人生を歩んでいくために、あなたの『何のために』を考えてみてはいかがでしょうか。



この映画の中には5人の登場人物が出てきます。中村文昭と出会い、スイッチが入り、日々、苦悩しながらも自分の「何のために」を考えながら奮闘している方々の物語です。きつとこの5人の中のその生き方や考え方に感動や共感をしていただける方がいると思います。この映画を見て、ぜひもう一度みなさんの「何のために」を考えてみてください。

昨年末クリスマスに、特別企画のCD販売があり、その際に購入した「中学校での感動の講演ライブCD」が若干あります。「君の代わりはいない」他、一番のヒット曲『人として』、また、両親が離婚して父代わりで育ててくれた祖父宛のDAIの唄「向日葵」など、感動のMC(語り)も入った全6曲入りのCDを5日発行のチケプレ8月号にて抽選で5名様様にプレゼントします。ぜひ、ご応募ください。

同じ時期にタイトルは同じでも内容は全く違つたものにしたという書籍の『何のために』も発売され、さつそく拝読いたしました。

「目標達成型」ではなく、いただいた役割を有難く受け入れて、目の前のことを一生懸命にやり続ける「天命追求型」の人生を歩んできたという文昭さん。

キーワードは 「人を喜ばせるために」。

「若い人が喜んで誰かを喜ばせ、喜びが喜びを生んでいく世の中になつたらすごいこと」。

「ありがとう」

「おかげさま」

ととも。